

科目

音楽Ⅰ

教科	芸術	学科・学年	機械工学、電子機械工学、金属工学、電気工学、建築工学(選択)、土木工学(選択) 1年	単位数	2
教科書	高校生の音楽1 (教育芸術社)				
副教材	改訂 音楽通論 (教芸)				

どんな科目？

音楽はリズムや音程、テンポ、ハーモニーなどいろいろな要素から成り立っています。「音楽Ⅰ」では幅広い分野の音楽を聴いたり演奏したりして、それぞれの魅力を自分の言葉で伝えることができるようにします。実技に関しては、楽譜から作曲者や作詞者の思いを読み取り、演奏で表現できるようにします。

学習の到達目標

- ・毎時間、楽曲に関するプリントを配布します。そのプリントを用いて、音楽の魅力を探り、曲に対する理解を深めます。
- ・幅広いジャンルの音楽を演奏・鑑賞します。この活動を通して、時代や地域による表現の違いを感じ取り、それぞれの魅力を人に伝えられるようにします。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	〈歌唱〉	・腹式呼吸など歌唱の基本を身に付ける。	○		◎
	5	・校歌	・曲想や歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージを持って歌う。		○	◎
	6	・魔法みたいに	・様々なリズムを知覚し、体を使って表現する。	○		◎
	7	・野ばら その他 クラIPPINGカルテット 〈楽典〉音楽基礎理論	・音名や音符の長さを理解し、読譜能力を養う。～	◎		
2 学期	9	〈器楽〉ギターの演奏	・ギターの基本的な奏法を習得し、基本的なコードを演奏できるようになる。	◎		○
	10	・チェリー	・楽器の音色や奏法の特長を生かし、表現を工夫して演奏する。	○	◎	
	11	〈器楽〉打楽器と歌のアンサンブル	・様々な打楽器を使ってサンバのリズムに親しむ。		○	◎
	12	・風になりたい 〈鑑賞〉西洋音楽史 ・古典派ロマン派の音楽	・様々な形式について理解するとともに、それが生み出す雰囲気を感じ取る。	○	◎	
3 学期	1	〈日本の音楽〉〈民族音楽〉	・日本と西洋の弦楽器の撥弦の違いを認識する。	◎	○	○
	2	・日本の弦楽器と世界の弦楽器	・我が国や郷土の伝統音楽の特徴を理解する。	◎	○	
	3	・雅楽・能・歌舞伎 ・様々な管楽器 〈創作〉	・管楽器の種類を知り、それぞれの楽器の仕組みを理解する。	◎		○
		・作曲	・音階を選び、イメージを持って旋律を作る。	○	◎	○

評価の方法

- ・授業中に配布するワークシートを毎回点検、評価。
- ・音楽基礎理論や曲に関する理解度を高めるため、筆記試験を実施し、評価する。
- ・学期末に歌唱の実技試験を実施し、評価する。

科目

美術 I

教科	芸術	学科・学年	建築工学科・土木工学科 (選択) ・ 1 年	単位数	2
教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)				
副教材					

どんな科目？

幅広い創作活動を通して、多様な表現方法を身に付けます。
美術作品の鑑賞を通して、そのよさや美しさを味わい、美術の素養を身に付けます。

学習の到達目標

創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を養うことができます。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	鑑賞	教科書の作品を味わい、理解することができる。 立方体や瓶を鉛筆で正確に、描写することができる。 キャンバスに描くことにより独自の表現を追求することができる。	○	○	
	5	絵画「静物デッサン」		○	○	○
	6	絵画「静物画」		○	○	○
	7					
2 学期	9	デザイン「表紙デザイン」	目的に応じたテーマを表現できる。 テーマにもとづき的確な構成ができる。 色の持つ特性を理解できる。	○	○	○
	10					
	11	デザイン「色彩について」		○	○	
	12					
3 学期	1	立体造形	平面と立体のとらえ方の違いを理解することができる。 テーマを意識して構成を練り上げ計画的に作業をすすめて制作することができる。 作品が一番美しく見える場所と角度を選び、作品撮影をすることで形の見え方のや表現を理解する	○	○	○
	2					
	3	空間演出写真		○	○	○

評価の方法

作品、授業態度（関心、意欲等）、プリント等で総合的に評価します。